



令和6年1月19日

## 本学経営情報学部経営学科佐々木宏之教授が 執筆した論文が国際学術誌「Consciousness and Cognition」 オンライン版に掲載されました

本学経営情報学部経営学科 佐々木宏之教授が執筆した論文「Is non-synesthetes' B Blue? Grapheme-color association improves non-synesthetes' detection in visual search (共感覚を持たなくても B は Blue? 色と文字の結びつきによる視覚探索の改善)」が国際学術誌「Consciousness and Cognition」オンライン版に掲載されましたのでご案内申し上げます。

この論文は、令和3年度本学卒業生の渡邊菜々さんの卒業研究を基に指導担当の佐々木宏之教授が執筆した論文です。研究概要については、別紙をご覧ください。

なお、国際学術誌オンライン版は令和6年2月18日まで無料閲覧いただけます。

<https://authors.elsevier.com/a/1iLH23lcz45EvR>

以上

### 【問合せ先】

新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科  
教授 佐々木 宏之

〒950-2292 新潟市西区みずき野 3-1-1

TEL 025-239-3111 (代)

E-Mail : sasakihi@nuis.ac.jp

## BはBlueが見つやすい？ 私たちの脳に潜む共感覚の仕組み

### 【概要】

文字を見ると特定の色を感じる特殊な感覚は色字共感覚と呼ばれ、人口の1~2%の人が持っていると言われています。色の処理を司る脳の領域と文字の処理を司る脳の領域は隣接しており、色字共感覚を持つ人はこれら脳の領域間に強い神経ネットワークの結びつきがあると考えられます。一方、共感覚を持たない大半の人たちは文字から色を感じることはないため、これまで色字共感覚に関する研究では対照群として実験に参加してきました。

しかし、共感覚を持たない人でも、「A」の文字に合うのは何色かと問われれば「赤」、「B」は「青」というように、文字と色の関係には一定の規則性があることがわかっています。我々の研究はこの知見をさらに推し進め、共感覚を持たない97名を対象に、色がついた文字を探索する実験（図1）を行いました。その結果、赤いA、青いB、黄色のCは他の色との組み合わせより早く見つけることができる（図2）ことが明らかとなりました。この研究成果は、共感覚を持たない多くの人も「考えてみたらそんな気がする」というレベル以上に強い文字と色の結びつきがあることを示しており、これまでの定説を覆すものとなりました。つまり共感覚を持たない人にも共感覚保持者と共通する脳のメカニズムがあることが考えられるので、今後の共感覚研究では、共感覚を持たない人を対照群とすることには慎重になるべきだということを示唆しています。

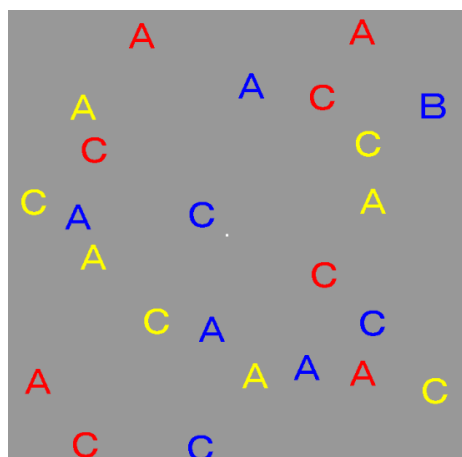


図1 「B」を探す課題で表示された画面

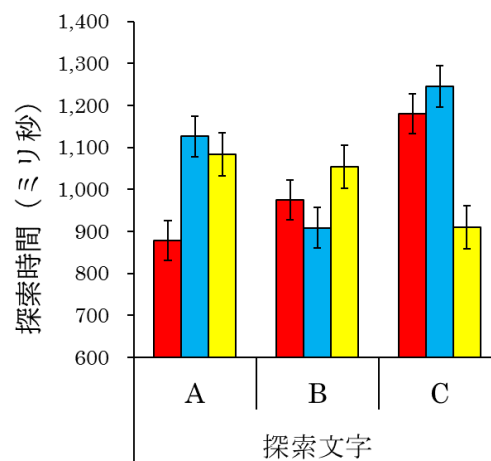


図2 文字探索実験の結果  
(棒の色が探索文字の色を示す)

### 【文献情報】

Sasaki, H. & Watanabe, N. (2024). Is non-synesthetes' B Blue? Grapheme-color association improves non-synesthetes' detection in visual search. *Consciousness and Cognition*, 118, 103632. <https://doi.org/10.1016/j.concog.2023.103632>

渡邊 菜々 (2021). 非共感覚者の文字と色の対応付けについて—選択課題と視覚探索課題から— 令和3年度新潟国際情報大学卒業論文